

教科	工業	科目名	建築構造(選択)	単位数	2
学科	建築科	学年	2 学年	履修区分	選択
使用教科書	「建築構造」(実教出版)				
副教材など	「建築演習ノート」(実教出版), 「建築構造図集」(実教出版), 補助プリント				

1. 科目の目的

- ①建築物の各部の名称や役割, 使用されている建築材料の名称や特性及び部材の構成方法などのあらましを習得することをめざす。
- ②建築物を形づくり, それらを支えている骨組みや基礎をどのような材料を用いて, どのように構えつくられているか, その構成方法(構造法)と特性のあらましについて把握することをめざす。

2. 授業の内容と進め方

本校では, 講義のみの授業にならないように, 教科書を理解させるだけでなく, 実習科目と連携をとって各種資格試験の取得にもつながる知識を習得しています。

3. 学習する上での留意点

各单元ごとに小テストを行います。各学期に中間考査・期末考査を実施します。建築物の各部の名称や建築材料の名称を覚えるために, 受業ノートをきちんとまとめ提出させます。

4. 課題等について

各单元ごとに, 学習到達目標に達しない生徒は, 補習を実施します。

5. 成績評価規準(評価の観点及び趣旨)

評価の観点	評価規準
知識・技術	建築物の構造や建築材料に関する基礎的な知識を習得し, 建築に関わる諸事項を合理的かつ的確に遂行する技術や技能を身に付けている。
思考・判断・表現	建築物の構造や建築材料に関する基礎的な知識や技能を活用し, 建築物の設計や施工をするときに生じる諸問題の解決を目指して自ら思考し, 判断し創意工夫する能力を身に付けるとともに, その成果を適切に表現することができる。
主体的に学習に取り組む態度	建築物の構造や建築材料に関心を持ち, これらに関する基礎的な知識や技能の習得を主体的に粘り強く取り組もうとしている。

6. 評価の方法

- 1) 出席状況
- 2) 授業への取組状況
- 3) 授業ノートの内容
- 4) 定期テスト
- 5) 項目ごとの小テスト

《指導計画》 科目名 建築構造(選択)

2 学年

2 単位

学期	月	学習内容 (単元・考査等)	学習のねらい	評価方法等	
一 学 期	4	(1) 構造形式 ア) ラーメン構造 イ) 壁式構造	○建築物の構造形式が、それぞれの支持形式により、理解することができる。	小テスト 期末テスト	
	5	(2) 鉄筋とコンクリート ア) 鉄筋 イ) コンクリート	○鉄筋とコンクリートの形状・寸法・標示記号等が理解できる。		
		(3) 基礎 ア) 地盤 イ) 基礎の形式	○地盤の種類・基礎の構造・形式が理解できる。		
	6	(4) 主体 ア) 構造計画 イ) 配筋の要点 付着, 定着, 継ぎ手, 定着長さ	○鉄筋コンクリート造の平面・立面的に構造計画を立てることができる。また、鉄筋の配筋規定・柱梁の規定等が理解できる。		小テスト
	7	ウ) 梁 エ) 柱 (5) 防水 ア) 防水の種類と方法 イ) 地下室の防水	○いろいろな建築物に合った防水方法・材料を理解することができる。		
二 学 期	9	(6) 仕上げ ア) 外部仕上げ イ) 内部仕上げ	○いろいろな建築物の仕上げの方法材料をりかひすることができる。	小テスト	
	10	(7) その他の鉄筋コンクリート構造		中間テスト	
	11	(8) 鋼構造 ア) 構造形式 イ) 鋼材の種類および性質	○鉄骨構造物の構造形式を知ることにより、構造物に使用される鋼材の名称・性質・種類・強度等を理解し、鋼材を接合する際の継ぎ手の種類・特徴・利用方法・ボルトの種類等を理解することができる。また、鉄骨構造に利用される基礎の構造・形式骨組みの形式・仕上げの方法等を理解することができる。	小テスト	
		ウ) 鋼材の接合 エ) 基礎		期末テスト	
	12	オ) 骨組 カ) 仕上げ キ) その他の鋼構造			
三 学 期	1	(9) その他の構造 ア) 鉄骨鉄筋コンクリート構造	○特殊な鉄骨構造における継ぎ手・仕口の方法が理解できる。また、それらの構造に利用されている特殊な加工工法・施工方法が理解できる。	小テスト	
	2	イ) プレストレスト構造		期末テスト	
	3	ウ) 擁壁と塀			